

2017年度事業報告書

2017年3月 1日から
2018年2月28日まで

公益財団法人日本野球連盟

2017年度事業報告

1. 総括

2017年度の大会事業においては、都市対抗野球大会は「東京都・NTT東日本」、社会人野球日本選手権大会は「トヨタ自動車」が制した。近年、特に実績を残してきた両チームを中心にレベルの高い試合が繰り広げられたこともあり、来場者数は、都市対抗で52万人、日本選手権では18万人を超えた。

2019年、都市対抗は90回、本連盟も創立70周年を迎える。その記念行事の一環として、毎日新聞社の協力も得て都市対抗全試合のインターネットライブ配信をスタートさせた。初年度は試験的な取り組みではあったが、多数の方々に楽しんでいただくことができた。社会人野球の雰囲気をもっと多くの方々に実感してもらうため、今後は、CS放送とも連携して質の向上を図ると同時に、日本選手権の配信にも取り組んでいく予定である。

一方、クラブ選手権では、「和歌山箕島球友会」が4回目の優勝、通算優勝回数で全浦和野球団（埼玉）と大和高田クラブ（奈良）を上回り、最多10回の全足利クラブに次ぐ歴代2位となった。クラブチームに対する振興策としては、トップレベルのチームの育成と底辺の拡大がテーマとなる。近年、クラブ選手権の技術レベルは著しく向上し、優勝チームも日本選手権の舞台で堂々とした戦いぶりであり、評価できる。全国大会へ向けたステップとなる位置付けの「各地区クラブ選手権」の定着化と「クラブチーム技術研修会」の継続実施によりさらなるレベルアップを目指す。運営面でも、地域の企業や自治体からの支援、協力を得られるクラブチームが増える傾向にあり、一部のクラブチームではあるがその取り組みは、JABAニュース等を通じて他のクラブチームに向けて発信した。クラブチームには、単なる競技者の受け皿としてではなく、地域の振興にも寄与できる組織作りも目指してほしい。

競技力向上事業における近年の課題は、日本代表候補選手が国際経験を積むための事業の実施である。昨年は、BFAアジア野球選手権でライバルチームである韓国、台湾を破り、見事優勝を飾ったが、大会後、多くの選手がプロ入り、当面の目標に掲げてきた本年8月に開催予定の「アジア競技大会（インドネシア・ジャカルタ）」を前に次の世代の育成が急務となった。幸いにして、昨年11月中旬から約1か月間にわたり台湾プロ野球連盟が主催するアジアウインターリーグへの参加が叶い、過去に例のない長期にわたる国際大会の場を得ることができた。本連盟としては、社会人代表チームの強化と並行して常に次の世代の育成に努めなければならない。昨年は、アジアウインターリーグの期間との重複から止むを得ず全日本ジュニア強化合宿は中止したが、今後はアジアウインターリーグとともに強化事業の軸とし、各地区連盟が実施する新人研修会とも連携し、全体の底上げと代表チームの強化を図っていく方針である。

普及振興事業については、加盟団体である少年野球や女子野球各団体を通じた支援策が基本となる。また、各連盟やチームが行う指導者や審判員の育成、少年野球教室、ティーボール教室などの事業については引き続き側面から支援した。同時に昨年につきJABAのメイン大会の会場である東京ドームと京セラドーム大阪でティーボール教室を開催、幼稚園児や保護者など両会場を併せて約2千人が参加した。本年度は、さらに全国各地の加盟チームの力も借りて幼稚園児を対象にするティーボール教室の全国展開を目指す。本連盟創立70周年事業の一環として「10月7日」をティーボールの日とし永くこの取り組みを継承することとした。

最後に、本連盟は、将来へ向けた本連盟のあるべき姿を検討するため、将来構想プロジェクトチーム（筒井崇護委員長）をスタートさせた。来るべき50年後、更には、100年後においても、JABAの存在意義と企業スポーツとしての社会人野球が確固たる地位を保ち、社会の財産として多くの国民に受け入れられ続けるためにはどうあるべきかという観点で議論を重ねている。本年7月に中間報告、来年2月には最終答申が提出される。本連盟が果たすべき役割を改めて見直す機会とし、次の時代へ向けた野球振興策の一助としていきたい。

2. 本年度の事業内容

(1) 公益目的事業Ⅰ 都市対抗野球等、野球大会の開催と運営

ア. 第88回都市対抗野球大会・・・(資料「14頁」参照)

期 日 7月14日(金)～7月25日(火)

球 場 東京ドーム

参加チーム 32チーム

※「東京都・NTT東日本」(2年連続41回目の出場)が36年ぶり2度目の優勝を飾り、黒獅子旗を獲得した。

※全国各地で行われる予選に対し、それぞれ当該地域の地区連盟を通じて、一部運営経費を負担した。

※大会期間中の運営や観客の移動等に伴い排出温室効果ガスを企業等の協力によりJクレジット等にてカーボンオフセットし、温暖化対策に取り組んだ。(資料「15頁」参照)

※オリンピック・パラリンピック等経済界協議会による「競技場の美化運動」に協力した。

(資料「16頁」参照)

※記念事業企画委員会の設置

2019年度に実施する「第90回都市対抗野球大会・創立70周年」記念事業について、企画委員会を設置し、具体的な事業内容について協議を始めた。

都市対抗のインターネットライブ中継については、2017年度より実施した。

イ. 第43回社会人野球日本選手権大会・・・(資料「18頁」参照)

期 日 11月2日(木)～11月12日(日)

会 場 京セラドーム大阪

参加チーム 32チーム

※東海地区代表の「トヨタ自動車」(14大会連続17回目の出場)が3大会ぶり5回目の優勝を飾り、ダイヤモンド旗を獲得した。

※社会人野球日本選手権大会の対象として代表権を与えた以下の大会に対し、予選費として使用球と審判にかかる経費を支給した。

北海道兼東北、長野県知事旗、日立市長杯、東京スポニチ、静岡、ベールブラス杯、京都、岡山、四国、九州

ウ. 第42回全日本クラブ野球選手権大会・・・(資料「19頁」参照)

期 日 9月1日(金)～4日(月)

球 場 メットライフドーム

参加チーム 16チーム

※近畿地区代表の「和歌山箕島球友会」(2年ぶり7回目出場)が2年ぶり4回目の優勝を飾り、社会人野球日本選手権大会の出場権を獲得した。

エ. 各地区クラブ大会

以下の通り「各地区クラブ選手権大会」として8大会(中国地区と四国地区は合同開催)を実施した。

主 催：日本野球連盟、日本野球連盟各開催地区連盟、毎日新聞社

後 援：スポーツニッポン新聞社

協 賛：ミズノ株式会社

※各大会の運営は開催地地区連盟に委託。大会運営費は各地区連盟に支給した。

2017年度の開催状況

大会名	期 間	球 場	チーム数	試合方法	優勝チーム	準優勝チーム
北海道地区 クラブ選手権	9/2・3・10	岩見沢市民・ 栗山町民	12	トーナメント	札幌ホネット	小樽野球協会
東北 クラブカップ	9/9～2日間	一関運動公園・ 東山	8	トーナメント	互大設備ダイヤモンド クラブ	HOKUTO BC
北信越 クラブカップ	9/30～2日間	長野県営	7	トーナメント	千曲川硬式野球 クラブ	ロキテック BC
関東連盟 クラブ選手権	9/30～2日間	市営浦和・ 越谷市民	8	トーナメント	THINKフィットネス ゴールデンジムBC	全足利クラブ
東海地区 クラブ野球 選手権	9/3・23・24 11/23・25	三菱大府・ 岡崎市民・ 東邦ガス空見・ JR東海G	17	トーナメント	矢場とんブラスターズ	山岸ロジスターズ
近畿クラブ 会長杯	11/18・19・23	NTT淀・ 大阪ガス今津G	8	トーナメント	シキウスBBC	OBC高島
中・四国クラブ 野球選手権	9/2・10・24 10/14	アグリあなんS・ 東広島アグリス・ 山口きららドーム・ 倉敷市営	12	トーナメント	松山フェニックス	ショウワコーポレーション
九州クラブ 野球選手権	10/7～2日間	みどりの森・ 佐賀市立ブルーS	8	トーナメント	BAN BC	鹿児島ドリームクエーツ

オ. 2017年度各JABA公式大会結果（主要大会のみ）・・・（資料「20頁」参照）

カ. 各種プログラム管理（プログラム維持・JABA登録事務手続システム）「選手登録・大会出場管理システム」により全国各地で行われる大会への出場手続や選手の登録管理を行った。管理にかかる費用については、大会運営に直結することから、法人会計との按分により一部費用を大会事業費に計上した。

キ. 広報活動

日本野球連盟報（年刊会報誌）、JABAニュース（月刊会報誌）を通じて大会事業の広報活動を行った。編集発行にかかる費用のうち、大会事業にかかる部分につき、公益事業Ⅲ（スポーツ情報提供事業）と按分にて計上した。

大会事業の広報活動の一環として、社会人野球情報誌「グランドスラム」の制作に協力、また、インターネット公式ホームページからも情報を発信した。大会事業の広報活動にかかる費用については、公益事業Ⅱ（普及振興事業）と費用按分にて計上した。

ク. 表彰事業（年間表彰式）

①表彰選考

表彰選考委員会を開催し、主要大会の成績を基に協議した結果、以下のとおり表彰者が決定した。

位 置	氏 名	年令	所 属	回数
投 手	田 嶋 大 樹	21	J R 東 日 本	初
捕 手	山 内 佑 規	29	東 京 ガ ス	2
一塁手	喜 納 淳 弥	25	N T T 東 日 本	初
二塁手	法 兼 駿	23	パ ナ ソ ニ ッ ク	初
三塁手	北 川 利 生	24	日 本 通 運	初
遊撃手	福 田 周 平	25	N T T 東 日 本	初
外野手	神 里 和 毅	23	日 本 生 命	初
	多 木 裕 史	27	ト ヨ タ 自 動 車	2
	伊 藤 亮 太	27	N T T 東 日 本	初
指名打者	関 本 憲 太 郎	28	日 本 通 運	初

（個人賞）※成績

表彰	氏 名	年令	所 属	回数
首位打者賞	高 本 泰 裕	31	N T T 西 日 本	初
最多打点賞	関 本 憲 太 郎	28	日 本 通 運	2
最多本塁打賞	該 当 者 な し			
最多勝利投手賞	臼 井 浩	23	東 京 ガ ス	初
最優秀防御率賞	福 島 由 登	27	H o n d a	初

②表彰式

期日：12月14日

場所：KKRホテル東京（千代田区）

※関係者等約100名が出席して表彰式及びパーティーを行った。

※社会人野球女性ファン層の拡大を目的として、マイナビウーマンとJABA会員合計20名を招待した。

ケ. 指導者育成事業

①第42回JABA指導者研修会・・・(資料「21頁」参照)

大会事業のレベルアップを図るため、1月13日、TKP東京駅日本橋カンファレンスセンター会議室<千代田区>において指導者に対する研修会を実施した。加盟チーム監督、コーチ等68チーム87名が参加した。

なお、本研修会は普及振興目的と同一の研修会として実施し、かかる費用については、普及振興目的に対する費用と按分計上した。

コ. 審判員育成事業

①第60回全国審判講習会・・・(資料「22頁」参照)

2月10日から3日間、四国コカ・コーラボトリングスタジアム丸亀<丸亀市>に於いて、審判講習会を開催した。各都道府県ならびに傘下団体の審判員56名が参加した。なお、本研修会は普及振興目的と同一の講習会として実施し、かかる費用については、普及振興目的に対する費用と按分計上した。

②各地区・都道府県審判員育成事業に対する支援

各地区連盟又は加盟団体が実施する審判員育成事業に対する一部事業費の負担、講師の派遣等を実施した。

2017年度は16件の申請に対し、それぞれ委員を派遣した。

サ. 公式記録員育成事業

①公式記録員実地研修の実施

7月14日から12日間、東京ドームで開催された第88回都市対抗野球大会において、記録員講習の実施研修として各地区連盟から9名が参加し、公式記録を担当した。なお、指導は公式記録部会委員が行った。

シ. 場内アナウンス研修事業

①各地区場内アナウンス担当者実地研修の実施（実地研修につき大会運営費に計上）

7月14日から12日間、東京ドームで開催された第88回都市対抗野球大会において、場内アナウンスの実施研修として1名が参加した。

なお、指導はJABA推薦の講師が行った。

ス. コンディショニングスタッフ研修事業

本年度は実施なし。

セ. 競技力向上事業

①野球技術等に関する研究会

野球技術等に関する研究を競技力向上委員会委員がピッチング・バッティング・守備走塁・フィジカルの4研究会に分かれて「全日本選手育成のためのコーチングガイド」を作成した。この資料は各研修会で講師が使用するものとし、内部資料とすることとした。

②第33回全日本ジュニア強化合宿

11月中旬に予定していたが、アジアウインターリーグへの参加が決まり、開催時期が重複したため、本年度の全日本ジュニア合宿は中止とした。(7月14日、臨時理事会議決)

③優秀選手の発掘を目的とする情報収集活動

各地で行われる大会等に競技力向上委員を派遣し、選手に関する情報収集活動を行った。

④各地区連盟等が主催で実施する競技力向上を目的とする研修会に対し、運営費の一部支援、また、競技力向上委員やサポートスタッフの派遣を行った。

【クラブチーム技術研修会】

東北地区 7月 8日 参加者30名（講師：新沼、石井、サポートスタッフ 木村）

北信越地区 10月14日・15日 参加者34名（講師：横井、坂口、相澤）

※企業新人研修会と同時開催

九州地区 11月17日・19日 参加者30名（講師：内川、若林、杉浦）

※企業新人研修会と同時開催

東海地区 11月18日 参加者30名（講師：棚橋、片山、サポートスタッフ 伊藤）

【企業新人研修会】

東海地区 8月 8日・9日 参加者30名（講師：棚橋）

東北地区 9月23日・24日 参加者30名（講師：新沼、多幡、サポートスタッフ 伊藤）

中国地区 9月30日・10月1日 参加者40名（講師：原、坂口、サポートスタッフ 土井）

北信越地区 10月14日・15日 参加者34名（講師：横井、坂口、相澤）

※クラブチーム技術研修会と合同開催

九州地区 11月17日・19日 参加者30名（講師：内川、若林、杉浦）

※クラブチーム技術研修会と合同開催

⑤全日本野球協会（BFJ）選手強化委員会事業に対する協力

BFJが実施する強化事業については、JABA加盟チーム選手や指導者が多数参加することからかかる負担金を拠出した。主なBFJ競技力向上目的の事業は以下のとおり。

・社会人代表選手強化合宿

第1回：6月22日～25日 JR東日本グランド

第2回：8月4日～7日 札幌

第3回：9月26日～29日 関東近郊（直前合宿）

・大会名：BFA第28回アジア野球選手権・・・（資料「23頁」参照）

開催国：台湾・新北市

期間：10月2日～8日

成績：①日本 ②台湾 ③韓国 ④フィリピン ⑤香港 ⑥パキスタン ⑦スリランカ

※中国は辞退

・全日本野球協会からの要請に応じて国際大会等への代表者等を派遣した。

日本代表チーム監督、コーチ及び関係スタッフ

各大会運営スタッフ（審判員、記録員等）

ソ. 海外研修及び派遣事業

①大会名：アジア・ウインター・ベースボール2017（AWB）

・・・（資料「24頁」参照）

開催国：台湾

期間：11月25日～12月17日

場所：台中・桃園・雲林県

成績：①日本イースタン選抜 ②韓国プロ選抜 ③日本JABA選抜 ④台湾プロ選抜

⑤日本ウエスタン選抜 ⑥欧米選抜

※予選リーグは11勝3敗2分で1位の成績であったが、決勝トーナメントでイースタン選抜に敗れた。3位決定戦で台湾プロ選抜に勝ち3位。

※当初、当連盟の事業として2000万円の予算を計上したが、BFJの強化事業として認められたため、渡航費、宿泊費、用具費等はBFJに計上された。当連盟は、一部用具費とスタッフの派遣費用として約200万円を計上した。

(2) 公益目的事業Ⅱ 普及振興事業

ア. 指導者育成事業

①第42回指導者研修会

前項ケに記載の指導者育成事業について、普及振興目的部分に対する費用は公益Ⅱに按分計上した。

イ. 審判員育成事業

①第60回全国審判講習会

前項コに記載の審判員育成事業について、普及振興目的部分に対する費用は公益Ⅱに按分計上した。

②各審判員育成事業に対する一部事業費の負担及び講師の派遣

前項コに記載の各地区・都道府県審判員育成事業について、普及振興目的部分に対する費用は公益Ⅱに按分計上した。

ウ. 公式記録員育成事業

①各公式記録員育成事業に対する一部事業費の負担及び講師の派遣

各地区連盟又は加盟団体等が実施する公式記録員育成事業に対する一部事業費の負担、講師の派遣等を実施した。（加盟地方団体普及振興事業）

エ. コンディショニングスタッフ研修事業

本年度は実施なし。

オ. 中学硬式野球協議会事業

①第11回全日本中学野球選手権大会（ジャイアンツカップ）の開催

8月14日・15日・17日・18日・19日、東京ドーム他で開催された本大会では、各少年野球団体から32チームが参加し、「佐倉リトルシニア」が優勝した。

②U15アジアチャレンジマッチ2017の開催・・・(資料「26頁」参照)

期 間：11月23日～26日

場 所：松山市（愛媛県）

成 績：①日本（3勝） ②台湾（2勝1敗） ③松山市選抜（1勝2敗）

④オーストラリア（3敗）

※読売新聞社との共催、愛媛県及び松山市より助成金。

③各加盟団体等主催指導者講習会に対する一部事業費の負担及び講師の派遣

各加盟団体が実施する指導者講習会に対し、以下の通り13名の講師を派遣した。

	地域	期日	会場	参加団体	参加者数	JABA 派遣
1	中四国	12月10日	マービー ふれあいセンター	ヤング ボーイズ・リトルシニア	300	可知芳則（医学） 中野達也（トレーニング） 村上文敏（講演）
2	静岡	12月17日	浜松医療学院	静岡県野球協議会	300	上里田哲英（トレーニング）
3	中日本	12月17日	HOTEL KOYO	ヤング・ボーイズ	300	可知芳則（医学） 草場昭宏（トレーニング） 内川義久（講演）
4	関東	1月20日	J A横浜みなみ 総合センター	ヤング	200	米川正悟（医学） 中野達也（トレーニング） 坂口裕之（講演）
5	関西	1月28日	堺市美原文化会館	ヤング・ボーイズ・ リトルシニア	400	正富隆（医学） 草場昭宏（トレーニング） 内川義久（講演）

カ. 女子野球普及振興事業を実施

①全日本女子野球連盟からの要請に応じて事業に対する支援を行った。

キ. 野球教室、ティーボール教室

①都市対抗開催期間中の7月24日に東京ドームにおいて開催。参加者は地元文京区を中心に東京都内から親子約1500名。また、日本選手権開催中の11月5日には京セラドーム大阪で開催、主に大阪市内から親子約700名が参加した。指導には、日本ティーボール協会並びに女子プロ野球選手らの協力を得た。(資料「25頁」参照)

②野球競技普及振興事業

JABA加盟団体等が実施する野球振興事業に対し「野球競技普及振興助成金」として一部事業費を負担した。

・普及振興事業全国一斉実施 25件

・ティーボール・野球教室 22件

ク. 東日本大震災野球復興事業

東北地区連盟との協議により、都市対抗野球大会に出場したチームの協力も得て東日本大震災被災地域における以下の普及振興事業を行った。期間は8月9日から11日。

- ・野球教室、高校野球指導者とのシンポジウム
- ・ティールーム教室
- ・高校野球選手の交流事業

ケ. 競技力向上事業

①国際事業の日本開催

- ・第27回世界少年野球大会 横浜大会

世界11カ国・地域から80名の子供たちが参加、9日間に渡り野球教室や各種交流イベントが行われた。(世界少年野球推進財団との共催)JABAから2名のコーチを派遣した。

期 間：8月8日～8月16日

場 所：横浜市

②全日本野球協会の選手強化本部事業に対する協力

- ・第4回WBSC U-12ベースボールワールドカップ・・・(資料「27頁」参照)

全日本野球協会の要請により、当連盟加盟団体から役員と選手を選出し派遣した。

期 間：7月28日～8月6日

場 所：台湾・台南市

成 績：①アメリカ ②台湾 ③メキシコ ④日本 ⑤韓国 ⑥ニカラグア ⑦パナマ

⑧チェコ ⑨ブラジル ⑩オーストラリア ⑪南アフリカ ⑫ドイツ

- ・第1回BFA女子野球アジアカップ・・・(資料「28頁」参照)

全日本女子野球連盟より役員と選手を選出し派遣した。

期 間：9月2日～7日

場 所：香港

成 績：①日本 ②台湾 ③韓国 ④香港 ⑤インド ⑥パキスタン

- ・第9回BFA U-15アジア選手権大会・・・(資料「29頁」参照)

KWB野球連盟より役員並びに選手を選出し派遣した。

期 間：11月1日～5日

場 所：伊豆市

成 績：①日本 ②台湾 ③韓国 ④フィリピン ⑤パキスタン ⑥香港

- ・全日本野球協会からの要請に応じて国際大会等への代表者等を派遣した。

日本代表チーム監督、コーチ及び関係スタッフ

各大会運営スタッフ(審判員、記録員等)

- ・その他

チームの海外派遣及び外国チームの招聘に関する事、並びに国際交流を通じて野球競技の国際的な普及・振興に寄与すること、アジア野球連盟加盟国をはじめ、諸外国からの協力要請がある場合については、全日本野球協会と連携を図り、チームの派遣・招待、指導者や審判員、記録員、選手等の派遣等の各種活動に協力した。また、国際野球ソフトボール連盟、アジア野球連盟及び日本オリンピック委員会、日本アンチドーピング機構等の事業については、全日本野球協会を通じて協力した。

③各加盟団体等が行う競技力向上事業に対する支援

各加盟団体が実施する競技力向上事業(選抜チームの海外派遣含む)に対し、申請に基づき一部事業費の負担、講師の派遣等を実施した。

コ. 展示による普及活動

野球殿堂博物館の維持会員として運営協力を行った。

サ. その他

①野球規則の制定に関する協議

規則・審判委員会を設置し、競技規則に関する協議を行った。また、全日本野球協会アマチュア野球規則委員会に代表者を派遣し、野球競技規則制定に関する協議に参画した。

②野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議

社会人野球で使用できるバットについては、日本野球連盟（社会人野球）内規に定めている。また、全日本野球協会アマチュア野球規則委員会に委員を派遣し、競技施設、用器具等の指導及び公認に関する協議に参画した。製品安全協会に委員を派遣し、野球競技の用器具に関する協議に参画した。

③アオダモ資源育成の会に対する協力

選手が使用する木製バットの資源育成のため「アオダモ資源育成の会」の事業に協力した。

(3) 公益目的事業Ⅲ 野球情報提供事業

ア. 2017年度版日本野球連盟報の発行、配布

2017年度における当連盟の事業や野球に関わる事項等をまとめて発行した。

制作部数は2, 200部、配布先は当連盟内外の関係先、希望者に対する販売も行った。

イ. 月刊会報誌「JABAニュース」を年12回発行、JABA内外の関係先へ配布した。

発行部数は毎回1万部。(資料「34頁」参照)

※t o t o助成金の対象事業である。

※事業実施に際して、大会運営に関わる事業内容の情報提供と普及振興に関わる事業内容の情報提供を含んでおり、事業費については公益事業Ⅰ（都市対抗野球等、野球大会の開催と運営）にも按分して計上する。

(4) 収益事業

ア. 大会グッズ等の販売

都市対抗野球大会、社会人野球日本選手権大会、全日本クラブ野球選手権大会におけるグッズやプログラム等の販売を行った。

イ. 野球関連の書籍の販売

社会人野球ガイドブック「グラウンドスラム誌」の販売を行った。

(5) その他（諸規程に基づく承認事項等）

ア. 2017年度JABA公式大会の承認

・各地区連盟及び各加盟地方団体から届出のあった2017年度各JABA大会については別紙のとおり承認した。

・日本野球機構を通じて調整した結果、社会人野球日本選手権大会の対象大会へは、ベアブルース杯大会に中日ドラゴンズ(ファーム)、新潟大会には読売ジャイアンツ(ファーム)、広島大会には広島カープ(ファーム)が出場した。

・四国アイランドリーグPlusと協議した結果、四国大会に愛媛マンダリンパイレーツが出場した。

イ. 野球競技の競技施設、用器具等の指導及び公認に関すること

2017年度における社会人野球の公式戦で使用するボールは以下に掲げる「JABA公認ボール店」11社から申請があったボールとした。

イソノ運動具店、ミズノ、久保田運動具店、松勘工業、エスエスケイ、ゼット、アシックスジャパン、一光スポーツ、ハイゴールド、サンアップ、大阪ホームマー
以上 11社とする。

ウ. 所属プロ球団との交流試合

「2017年 プロ・社会人交流試合の申し合わせ事項」に則り実施した。

エ. 国内独立リーグとの交流試合

国内独立リーグの球団との交流試合は協定書に基づいて実施した。

オ. アオダモ育成資金

都市対抗野球大会に募金活動を実施し、集まった募金(416,137円)は「アオダモ資源育成の会」へ寄付した。

カ. 2017年度加盟チームの推移・・・(資料「30頁」参照)

キ. 2017年度加盟チーム数及び登録者数・・・(資料「31頁」参照)

ク. 2017年度加盟チームの変更事項・・・(資料「33頁」参照)

ケ. 2017年度一般賛助会員数(JABAクラブ)・・・(資料「34頁」参照)

コ. 2017年度会議開催状況

①評議員会

第1回定時評議員会	5月12日	東京ドームホテル
第1回臨時評議員会	9月8日	決議の省略(書面)
第2回臨時評議員会	1月22日	決議の省略(書面)

②理事会

第1回定時理事会	4月25日	ジャパンベースボールセンター会議室
第1回臨時理事会	5月12日	東京ドームホテル
第2回臨時理事会	7月14日	東京ドームホテル
第3回臨時理事会	11月2日	京セラドーム大阪
第4回臨時理事会	12月14日	KKRホテル東京
第2回定時理事会	2月16日	ジャパンベースボールセンター会議室

③業務執行会議

第1回業務執行会議	4月19日	ジャパンベースボールセンター会議室
第2回業務執行会議	7月6日	ジャパンベースボールセンター会議室
第3回業務執行会議	10月24日	ジャパンベースボールセンター会議室
第4回業務執行会議	12月5日	ジャパンベースボールセンター会議室
第5回業務執行会議	2月7日	ジャパンベースボールセンター会議室

④各委員会

【事業統轄委員会】

第1回事業統轄委員会	3月16日	ジャパンベースボールセンター会議室
第2回事業統轄委員会	5月18日	ジャパンベースボールセンター会議室
第3回事業統轄委員会	6月15日	ジャパンベースボールセンター会議室
第4回事業統轄委員会	8月17日	ジャパンベースボールセンター会議室
第5回事業統轄委員会	9月21日	ジャパンベースボールセンター会議室
第6回事業統轄委員会	11月16日	ジャパンベースボールセンター会議室
第7回事業統轄委員会	1月18日	ジャパンベースボールセンター会議室

【競技力向上委員会】

第1回競技力向上委員会	7月17日	東京ドーム
第2回競技力向上委員会	11月11日	京セラドーム大阪

【規則・審判委員会】

第1回規則・審判委員会	11月29日	ジャパンベースボールセンター会議室
-------------	--------	-------------------

【公式記録部会】

第1回公式記録部会	3月28日	ジャパンベースボールセンター会議室
-----------	-------	-------------------

【コンプライアンス委員会】

第1回コンプライアンス委員会	6月29日	ジャパンベースボールセンター会議室
----------------	-------	-------------------

【クラブ野球活性化委員会】

第1回クラブ野球活性化委員会	7月15日	東京ドーム
第2回クラブ野球活性化委員会	11月3日	京セラドーム大阪

⑤地区連盟会長懇談会 7月16日 東京ドーム

⑥日本野球振興世話人会全体会議	5月23日	サピアタワー会議室
日本野球振興世話人会懇談会	7月14日	東京ドーム
⑦第1回将来構想プロジェクト	3月16日	ジャパンベースボールセンター会議室
第2回将来構想プロジェクト	4月21日	ジャパンベースボールセンター会議室
第3回将来構想プロジェクト	5月22日	ジャパンベースボールセンター会議室
第4回将来構想プロジェクト	6月19日	ジャパンベースボールセンター会議室
第5回将来構想プロジェクト	9月21日	ジャパンベースボールセンター会議室
第6回将来構想プロジェクト	10月19日	ジャパンベースボールセンター会議室
第7回将来構想プロジェクト	11月24日	ジャパンベースボールセンター会議室
第8回将来構想プロジェクト	12月12日	ジャパンベースボールセンター会議室
第9回将来構想プロジェクト	1月18日	ジャパンベースボールセンター会議室
第10回将来構想プロジェクト	2月6日	ジャパンベースボールセンター会議室

サ. 2017年度 慶弔及び事務局人事

①表彰

第88回都市対抗野球大会で優勝した「東京都・NTT東日本」に以下の賞が贈られた。

- ・日本ユネスコ協会連盟賞
- ・第66回日本スポーツ賞（読売新聞社）「競技団体別優秀賞」

②逝去

2017年	3月21日	小材 全一	(日本野球連盟 元評議員)
2017年	3月23日	浅井 修一郎	(和歌山県野球連盟 会長)
2017年	11月28日	板倉 義和	(日本野球連盟 元評議員)
2018年	2月27日	富田 仁義雄	(日本野球連盟 元評議員)

以上

